

幼稚園入園期の3歳児保育

杉山 弘子*・高橋 亜紀**・北嶋 優帆**・坂本由佳里**

Early Care and Education for 3-Year-Olds in Kindergarten

Hiroko Sugiyama, Aki Takahashi, Yuho Kitashima, Yukari Sakamoto

本研究の目的は、幼稚園入園期（1学期）の3歳児保育のポイントを実践分析を通して明らかにすることである。幼稚園の3歳児2クラスの担任保育者が立てた指導計画、保育の展開と子どもの姿及び考察を記したものを資料として、入園期の子どもたちの変化と保育との関わりを生活、遊び、保育者との関係、友だちとの関係に視点をおいて検討した。子どもたちは1学期、保育者との信頼関係を土台に園生活の主体として成長する。保育者との信頼関係は、保育者が子どもと一緒に遊び、楽しさの共感や思いを受け止めた肯定的な関わりを積み重ねることで築かれていく。また、保育者との遊びは友だちとの遊びの楽しさの共有につながり、それによって友だちとの関わりを楽しいと感じる関係が築かれていくと考えられる。本研究では、幼稚園入園期の3歳児保育のポイントとして、保育者が子どもと一緒に遊びながら思いを受け止め、肯定的に関わることの重要性が明らかになったと言える。

キーワード：幼稚園、入園期、3歳児、保育

〈 問 題 〉

3歳で幼稚園に入園する子どもたちの多くは、初めての集団生活を経験することになる。入園前に未就園児を対象に実施されている活動に参加することは、入園後の園生活への移行を円滑にする可能性があると言われる（坂上・金丸，2017）。しかし、こうした場を経験していたとしても、家庭とは異なる環境で、日々、標準4時間を保護者と離れて過ごすようになることは、子どもにとって非常に大きな変化と言える。一人ひとりの子どもが安心して園生活をおくり、主体的に遊びを展開できるようになるためには、入園期に配慮した保育が不可欠であると考えられる。

相川（2000a）が3歳児保育から入園した母親を対象に実施したアンケート調査の結果は、保育者が子どもをしっかりと受けとめることや、子どもがすぐに好きな遊びを見つけられること、入園前に同年齢の子どもと遊ぶ経験がたくさんあることが、入園当初から子どもたちが不安なく登園する姿につながることを示唆している。さらに、入園当初不安を示した子どもたちが不安なく登園するようになるためには、幼稚園での生活がよくわかるようになることや担任

2019年12月26日受理

* 尚絅学院大学 教授

** 尚絅学院大学附属幼稚園 教諭

の保育者との信頼関係ができることが重要なことを示唆している。

観察による研究に目を向けてみると、入園当初の3歳児の姿を観察した相川(2000b)は、ロッカーの場所や身支度の仕方、トイレの使い方等、幼稚園での生活の仕方を知ることによって園生活への不安がなくなっていった事例を報告している。また、幼稚園の3歳児クラスの1学期間の片付け場面を観察した永瀬・倉持(2011)は、遊びから片付けへの移行を促すのは、4月の時点では保育者の個別の介入であったが、7月にはクラス全体への呼びかけで片付けを開始することができていたと言う。入園期の保育においては、幼稚園という環境の中で、自分の身の回りのことができるようになることや、日課に沿った場面の切り替えをどう支援するかが課題になると考えられる。

高月・松岡(2006)は、3歳児の1学期の観察から、子どもの人間関係の育ちに教師はどうか関わればよいかを考察している。これによると、教師は1対1で関わりながら子どもと信頼関係を築いている。教師が安心できる存在になると園生活も安定し、友だちと一緒に遊ぶようになる。トラブルも見られるようになるが、教師が仲立ちするなどして、友だちと一緒に遊ぶ楽しさを味わい、自分から友だちと遊ぼうとするようになったと言う。一方、井田・菅(2015)は、観察対象となった3歳入園児2名は、4月当初から他者への関心をもっており、他児と同じ動きを楽しむ身体的なレベルでの関わりが多く見られたこと、次に遊びの中での他児の発言の受け止めや自分の思いの表出が豊かになっていき、遊び自体も継続され展開されるようになること、その過程では、他児に先駆けて子どもの発想や思いを受け止め、子ども同士の場の共有や関わりを支える保育者の存在が大きな役割を果たしていたことを報告している。これらの研究は、保育者との信頼関係及び保育者の働きかけが、友だちとの関係づくりや遊びの展開に深く関与していることを示していると言えよう。

以上のことから、3歳で入園した子どもたちが安心して楽しい園生活を送ることができるようになるためには、園生活の仕方や流れがわかるようになること、好きな遊びを見つけられること、保育者との信頼関係が築かれること、遊びの中で他児と関わる場が生まれることが重要と考えられる。そこで、本研究では、下記の4点に視点をおいて、3歳児クラスにおける入園期の子どもの育ちとそれを支える保育について検討する。

- ①生活：園での生活の仕方や園生活の流れを理解し、主体的に行動できるようになる過程
- ②遊び：自分の好きな遊びを見つけ、積極的に遊びを楽しめるようになる過程
- ③保育者との関係：保育者との信頼関係が築かれる過程
- ④友だちとの関係：一緒にいることや遊ぶことが安心して楽しい友だち関係が築かれていく過程

保育活動はその時々の子どもの姿に応じて展開されるとともに、その反省・評価は次の指導計画に生かされ、保育を方向づける。本研究では、4月から7月までの1学期を入園期ととらえ、その間の指導計画、保育の展開と子どもの姿、及び保育者の考察(反省・評価)を記したものを分析の対象とする。子どもの姿から保育を振りかえり、よりよい保育をつくっていく過程を分析することで得られる知見は、今後の保育に大いに役立つものと考えられる。本研究の目的は、初めて集団生活に入った幼稚園の3歳児クラスの子どもたちが、安心して楽しい園生活を送り、生活の主体として育てていくための入園期の保育のポイントを実践分析を通して明らかにすることである。

〈 方 法 〉

1. 分析の対象

S幼稚園3歳児クラスの201X年の4月から7月までの指導計画、保育の展開と子どもの姿、及び考察（反省・評価）を記したものを分析の対象とする。3歳児クラスは2クラスある（AクラスとBクラスと記す）。第2著者と第3著者はそれぞれのクラスの担任であり、資料の作成者である。

1学期開始時点での新入園児の数はAクラスが13名、Bクラスが14名である。他に各クラス2名ずつの進級児（満3歳児保育からの継続児）が在籍していた。1学期終了時点までに、満3歳児がAクラスに2名、Bクラスに1名加わった。保育者は各クラスとも、担任1名と保育補助1名が配置されていた。担任の保育経験年数はAクラスが14年目、Bクラスが1年目である。いずれも3歳児クラスを担任するのは初めてであった。

2. 分析の方法

まず、クラスごとに①生活、②遊び、③保育者との関係、④友だちとの関係の4つの柱に沿って、ねらいと保育の取り組みの基本、子どもの姿と保育者の考察の要点を抜き出す。次に、子どもの変化の過程と保育との関わりを分析し、入園時期の保育のポイントを考察する。

〈 結 果 〉

1. 生活

(1) ねらい

生活に関する1学期のねらいは下記の3点である。

- ①基本的な生活習慣を身につける。
- ②園での生活の仕方を身につける。
- ③園生活の流れを知る。

なお、園生活の流れは、4月は午前保育であり、「朝の準備」「自由遊び」「片付け」「排泄・手洗い・うがい」「降園準備」「帰りの集まり」である。5月からは午後までの保育となり、「朝の準備」「自由遊び」「片付け」「排泄・手洗い・うがい」「朝の集まり」「昼食」「自由遊び」「片付け」「降園準備」「帰りの集まり」の流れとなる。

(2) 保育の取り組みの基本

保育者は身の回りのことを子どもと一緒にやることから始め、次第に見守るようにする。園生活の流れについては、場面の移行を知らせる言葉かけを行うとともに、次の場面がわかるような環境構成を行う。全体に働きかけるだけでなく、個別にやりたくなるような言葉をかけ、できたことを認めるようにする。

(3) 子どもの姿と保育者の考察

表1に生活場面での子どもの姿と保育者の考察をクラスごとに示した。

子どもの姿を見ると、4月は朝の準備や身の回りのことを保育者と一緒に行っている。遊びから朝の準備や片付けへの切り替えが難しい姿もあるが、5月には園生活の流れを身につける。6月には汚れたときなどに自分から着替えるようになる。さらに、7月には、満3歳児に対し

表1 生活

Aクラス		
時期	子どもの姿	保育者の考察
4月	<ul style="list-style-type: none"> 朝の準備を保育者と確認しながら行う。 自分で覚えたことを「できた」と喜ぶ。 時間がかかるが自分で進めようとする。 帰りには疲れが見られ、準備が進まない。 片付けをする場所などをわかりやすくすることで、少しずつ仕方が分かってくる。 遊びから片付けへの切り替えがなかなかできない子どもがいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 身につくまで一つひとつ時間がかかるため、十分に時間を保障し、自分の力で進められるようにしていくことが大切になる。 保育者と喜び合ったり、達成したことに満足したりすることで少しずつ身についていく。 子どもが自分で進められるようにイメージしながら保育室を整えることが、子どもの自立した行動へとつながる。
5月	<ul style="list-style-type: none"> 準備をやりたがらない子どもがいたが、周りの友だちの姿を見てやろうとしたり、友だちに助けられながら進めようとする様子が見られるようになる。 一日保育になり、午前保育での生活の仕方と違いがあるところに混乱が見られる。 朝の準備から降園までの流れを身につけて、保育者の声がけなしに進められるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 園生活に少しずつ慣れ、身の回りのことはほとんど自分で進められるようになっていく。 周りの友だちがすることを気にかけるようになり、準備が終わっていないことを保育者に伝えたり、手伝おうとしたりするようになっていった。園での生活に少しずつ余裕が生まれてきたことが感じられる。
6月	<ul style="list-style-type: none"> 汗をかいったり、汚したりしてしまった時に自分の着替えボックスから出して着脱する。 脱いだ後の服をボックスにしまう子どもがいる。 周りの汚れているところをタオルで拭こうとするようになる。 手を貸そうとすると「自分でできる」と言って進めようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な自立の経験が「自分でできる」という自信につながり、大人の手を借りずに進めることに喜びを感じるようになっていく。 落ちているおもちゃや、片付けられていない椅子に気づき、環境を整えようとするようになった。 ほとんどの子どもは排泄が自立し、それが自信につながり、食事や身の回りのことなどを頑張ろうとする意欲につながっているようである。
7月	<ul style="list-style-type: none"> 満3歳児がうまくできないことを助けたり、間違っていることを教えようとしたりする。 集まりや降園時の椅子の準備や片付けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 身についたことやできるようになったことを満3歳児に教えることが、自信につながっている。 生活が安定したことにより自分が気づいたことを進んでやろうとする姿が見られるようになった。
Bクラス		
時期	子どもの姿	保育者の考察
4月	<ul style="list-style-type: none"> 保育者と一緒に身の回りのことを一つずつ行っていく。 準備よりも遊びに夢中になり、なかなか支度をしようとしなない子どもがいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分ですること、覚えることもたくさんあり、戸惑うことも多かったと思うが、保育者と一緒に確認しながら行うことで一つひとつ身につけていく。 準備や片付けよりも遊びに気がいってしまう子どもの思いを受け止め、準備・片付けを遊びの一つとして行えるようにすることが大切である。
5月	<ul style="list-style-type: none"> 連休明けで、園生活のリズムを取り戻すのに時間がかかる。 どこに片付けるかなどの場所が少しずつわかり、声をかけなくても自分たちで片付けようとする。 園生活の流れがわかってきて、進んで自分から行動するようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 一日保育に変わったり、連休明けで気持ちが不安定になる子どもがいたが、気持ちを受け止めたり、保育者も一緒になって楽しんだりすることで、子どもたちも少しずつ園生活になじめるようになった。 どこに片付けるかなどの場所もわかってきた。日々の積み重ねが大切である。
6月	<ul style="list-style-type: none"> 泣いて登園してきていた子どもたちの気持ちも安定するようになる。 声をかけなくても朝や帰りの準備などの仕方がわかり自分で行う。 週末など疲れが出てくると、なかなか準備が進まないこともあるが、友だちに助けられながら自分もやろうとする。 自分で汚れたことがわかり、着替えボックスから洋服を出し、着替え片付けようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 少しずつ園にも慣れてきて、集中力があまり続かなくなることがあった。しかし、その中で、子どもたちが「やろう」と思えるような言葉をかけたり、楽しんで行えるような関わりをしたりすることが大切だと感じた。
7月	<ul style="list-style-type: none"> 連絡帳を出し忘れる子どももいるが、自分で絵本バッグの中身など持ち物を整理するようになる。 新入の満3歳児に、「ここはこうするんだよ」などと優しく声をかけ、教えようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 満3歳児の入園にあたり、自分たちより小さい子がくることを子どもたちに伝えたと、「コップ、タオル（の整理）わからないと思うから教えてあげる」などの声があり、入園を楽しみにしていた。自分たちはお兄さん、お姉さんという自覚が芽生えていたのではないと思う。

で教えたり助けたりする姿が見られるようになる。

こうした子どもの変化の過程において、保育者は、子どもが自分の力で進められるよう十分な時間をとることや環境を整えること（Aクラス担任）、準備や片付けを遊びの一つとして行えるようにすること（Bクラス担任）が大切としている。また、友だちの姿に目が行くようになることや自分でできるという自信が意欲につながることを指摘している（Aクラス担任）。

2. 遊び

(1) ねらい

遊びに関する1学期の主なねらいは下記の3点である。

- ①自分の好きな遊びを見つけて楽しむ。
- ②友だちと一緒に遊びを楽しむ。
- ③ごっこ遊びや自然との関わり、体を動かす遊びなど、様々な遊びを楽しむ。

(2) 保育の取り組みの基本

室内には、ままごとコーナーやお絵かきコーナー、表紙の見える絵本棚、廃材などを常時備えて、子どもがいつでも使えるようにする。また、段ボールのバスなど、子どもの関心に応じて遊具を加えていく。戸外では、自然物と触れ合えるようにするとともに、傾斜や段差のある山（園庭の一部）でも遊べるようにする。

(3) 子どもの姿と保育者の考察

表2-1にAクラスの遊びにおける子どもの姿と保育者の考察を示した。

Aクラスでは、保育者と一緒に遊びを楽しみながら、友だちと遊びの場を共有し、次第に子ども同士で遊びを楽しむようになる。同じテーマのごっこ遊びが繰り返し楽しめる一方で、ごっこ遊びの種類が増えていく。また、室内だけでなく戸外でも楽しめるようになる。戸外では山登りが繰り返し楽しめる。

保育者は、4月、保育者とのつながりができると遊びも活発になると考察している。また、5月、遊びの中で場所や空間を共有することが、保育者や友だちを近くを感じるきっかけになったと推察している。6月、遊びのおもしろさを友だちや保育者と分かち合うことに喜びを感じているようであると考察している。

表2-2にBクラスの遊びにおける子どもの姿と保育者の考察を示した。

Bクラスにおいても室内では一貫してごっこ遊びが楽しまれている。戸外では体を動かす遊びとともに、虫などの観察がなされている。

保育者は、6月、自分の好きな遊びを見つけて遊んでいると考察し、7月に友だちと一緒に遊ぶことを楽しいと感じてきていると考察している。それに先立ち、5月に、保育者と遊ぶのを楽しんだり、友だちの存在にも気づいたりしてきていることをあげている。また、自分がイメージするものになりきって遊ぶ楽しさと、そのための材料を用意することの大切さを指摘している。

表2-1 Aクラスの遊び

Aクラス		
時期	子どもの姿	保育者の考察
4月	<p>○室内遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ままごとで保育者とのやりとりを楽しむ。 ・段ボールを乗り物に見立てて繰り返し楽しむ。 ・少し高い台からジャンプをして楽しむ。 ・保育者に絵本を読んでもらいたがる。 <p>○戸外遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダンゴムシに興味を持ち、触ったり、観察したりする。積み木で迷路を作り、ダンゴムシが隙間に入りかかれたりするのをおもしろがる。 ・山の階段を友だちと登ったり降りたりを繰り返し楽しむ。 ・ブルーシートを敷いた坂で、転がったり滑ったりして楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい環境の中で緊張を感じ、なかなか遊びを見つけれずにいる子どももいたが、保育者とのつながりがつくと遊びも活発になっていく。 ・ダンゴムシの周りを囲み、一つのものを見て共感したり、ままごとやバスごっこなどで、物や空間を共有したりしたことで、友だちの存在を感じ、一緒に楽しめるようになっていった。 ・春の心地よさを感じながら、戸外の環境に親しみ、単純に山に登ったり降りたりすることを楽しんでいた。まだ足元に安定感がないため、転んだり、登ることに難しさを感じていたりしている様子もあったが、そこも含めて楽しんでいるようだった。
5月	<p>○室内遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乗り物ごっこ、温泉ごっこ、おばけごっこを楽しむ。子ども同士遊びを一緒に楽しむ姿も多くみられるようになり、次々子どもたちが発想を膨らませて、遊びが広がっていった。 <p>○戸外遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダンゴムシを集めることに夢中になる。箱に入れて草や花も入れたりしながら大事にする。 ・山の坂を何度も登ったり降りたりする。友だちを誘ったり、高い所から呼びかけたりして楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・段ボールで作った乗り物で、友だちと誘い合って楽しむようになり、友だちとのやりとりも増え、遊びがさらに盛り上がるようになった。 ・おばけごっこやバスごっこなどで、一緒にかくれたり、追いかけたり、狭い空間を共有したりすることで、より保育者や友だちの存在を近くに感じるきっかけとなったようである。 ・新聞紙を散らしたり、おいかけっこで体を動かしたりすることが心の解放につながり、いきいきと遊びを楽しむ姿につながっていたようである。
6月	<p>○室内遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おばけごっこ、温泉ごっこ、コンサートごっこを楽しむ。 <p>○戸外遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山の段差を使って、電気コーナー、お菓子コーナーなどとデパートに見立てて楽しむ。花や草を食べ物のイメージを持ってやりとりするのを楽しむ。 ・砂場でケーキを作ったり、ジュースを作ったりして、お店屋さんごっこを楽しむ。 ・山登りを繰り返すうちに、足の踏ん張りも強くなり、保育者の支えがなければ怖がって登れなかった子どもも、一人で登れるようになっていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・段ボールが次々と子どもがイメージしたものに変化し、必要なものを取り入れながら遊び、おもしろさを友だちや保育者と分かち合うことに喜びを感じているようである。 ・繰り返し合奏を楽しみ、自分が感じるままに楽器を鳴らしたり、歌ったりして音楽に親しんでいる。 ・遠足、おやつ作りなどの経験を取り入れながら遊びが展開している。 ・山登りの経験の積み重ねから、身体機能も高まり、登り降りする時の知恵も身につけている。
7月	<p>○室内遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンサートごっこやダンスなど自分で曲を流したりしながら楽しんでいる。 ・カラブロックを自動販売機に見立てて遊ぶ。 ・Bクラスがしている忍者ごっこがしたいと言い、一緒に手裏剣を作ったりして遊ぶ。 ・巧技台を組み立てて、体を動かして遊ぶ。それぞれ難しいことにも挑戦してできた喜びを感じたり、うまくいかない友だちを助けたりする様子が見られる。後に忍者の修行に変化していった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・梅雨の時期に入り、戸外で遊べない日が続き、また、体調を崩して欠席が続く子どもが多く見られ、なかなか遊びも盛り上がらない様子が続いていた。 ・忍者の修行から、忍者爆弾的あてを作って遊んだところから、穴に物が入り下に落ちることをおもしろがって自動販売機に見立てていた。

表2-2 Bクラスの遊び

Bクラス		
時期	子どもの姿	保育者の考察
4月	○室内遊び ・クレヨンやマーカーを使ってお絵かきを楽しむ。 ・バスに見立てた段ボールに入り、バスごっこを楽しむ。	・自分が描いたものなどを絵本バッグに入れて家に持ち帰るなどしていたことから、園生活の中で楽しかった出来事などを家の人にも見せたいという気持ちがでてきていたのではないかと思った。
5月	○室内遊び ・廃材を使い、イメージをもって作って遊ぶ。 ・絵本をきっかけにおばけごっこを楽しむ。 ○戸外遊び ・すべり台や山を登るなどして外で体を動かして遊ぶことを楽しむ。	・園生活に少しずつ慣れてきて、遊びも4月より活発になってきている。 ・保育者と遊ぶのを楽しんだり、友だちの存在にも少し気づいたりしてきている。 ・子どもの興味や関心に合った絵本が大切である。 ・最初は室内を好んだり、山を怖がる子どももいたが、友だちや保育者と遊ぶうちに少しずつ山にも登るようになった。
6月	○室内遊び ・ダンス、プリンセスごっこ、ヒーローごっこを楽しむ。 ○戸外遊び ・水を使い水の流れる様子など泥遊びを楽しむ。 ・ダンゴムシやアリ探しをして、動く様子を観察する。	・自分の好きな遊びを見つけて、子どもたちなりのイメージをもって遊んでいる。 ・水を砂に流して流れる様子や、裸足になり、泥の上で遊ぶなど、いつもの砂場とは違う感触を楽しんでいた。 ・なりきって遊ぶことで子どもたちのイメージが広がるようである。なりきって遊べるような材料を用意したり、一緒に作ったりすることが大切である。
7月	○室内遊び ・プリンセスごっこ、ヒーローごっこ、忍者ごっこを楽しむ。 ○戸外遊び ・カエルのえさを探し、アリや蜘蛛を見つけてカエルが食べているかを観察する。	・忍者やプリンセス、ヒーローなど自分がイメージするものになりきって遊ぶのを楽しんでいる。 ・少しずつ友だちとのつながりも出てきて一緒に遊ぶことを楽しいと感じてきている。 ・クラスで飼っていたカエルの様子を時々観察していたり、図鑑を見てカエルの食べるものがわかるとエサを探しに行ったりと生き物に対して興味を示していた。

3. 保育者との関係

(1) ねらい

保育者との関係での1学期の保育のねらいは、下記の2点である。

- ①保育者や友だちに親しみをもち、安心して生活する。(4月、5月)
- ②自分の思いや欲求を保育者や友だちに伝えようとする。(6月、7月)

(2) 保育の取り組みの基本

生活の場面では一人ひとりの子どもに応じた援助をすること、遊びの場面ではその子どもの好きな遊びと一緒に楽しむこと、その過程では子どもの思いをしっかりと受け止めることを保育の基本とした。

(3) 子どもの姿と保育者の考察

保育者との関係での子どもの姿と保育者の考察は表3の通りである。

入園当初の子どもたちは幼稚園での保育者との生活に不安を見せるが、次第に保育者に話しかけるようになり、保育者と一緒にすることを求めるようになる。そして、両クラスとも、6・7月には、自分がしたいことやしてほしいことを保育者に伝えてくるようになる。ふざけたり、反抗的になったりという自己表現も見られる(Aクラス)。

保育者との関係ができていく過程について、Aクラス担任は、一緒に遊ぶことで、「一緒に遊んでくれる人、自分を待ってくれる人、助けてくれる人」という安心感が伝わり、つながり

ができていくと考察している。Bクラス担任も、一緒に遊ぶことで、楽しさやおもしろさを共有できるとしている。また、子どもが自分の要求や思いを出すことについて、Aクラス担任は、子どもが遊びを展開する上での保育者の役割に言及している。一方、Bクラス担任は肯定的な関わりの大切さを指摘している。

4. 友だちとの関係

(1) ねらい

友だちとの関係での1学期の主なねらいは、保育者との関係と同じく下記の2点である。

①保育者や友だちに親しみをもち、安心して生活する。(4月、5月)

②自分の思いや欲求を保育者や友だちに伝えようとする。(6月、7月)

Aクラスでは、6月、7月に、「いろいろな遊びに興味を持ち、保育者や友だちと関わって遊ぶことを楽しむ」が加わる。

(2) 保育の取り組みの基本

保育者が一緒に遊びながら、友だちの存在に気づき、友だちと関わることの楽しさを感じられるようにしていくことを保育の取り組みの基本とした。

(3) 子どもの姿と保育者の考察

友だちとの関係での子どもの姿と保育者の考察は表4の通りである。

4月から遊びや遊びの場を友だちと共にしている。5月には一緒に遊びを楽しんだり、関わりをもったりしている。遊びを通して子ども同士のつながりが見えてくる一方で、6月、7月になると、思いのぶつかり合いも見られるようになる。

友だちとの関わりや遊びが見られるようになる過程について、Aクラス担任は、保育者との関わりがベースになると考えている。一方、Bクラス担任は、一人遊びの充実から友だちとの遊びへと広がるとしている。また、Aクラス担任は、歌や絵本などの共有を通して楽しい雰囲気と共に味わうことでつながりが深まるとしている。思いのぶつかり合いに関しては、Aクラス担任は、自分なりのイメージや思いをもって遊びを進めるようになるために生じると理解している。一方、Bクラス担任は、お互いの気持ちを受け止めたり、相手の思いを伝えて相手の気持ちにも気づけるようにすることが大切としている。

表3 保育者との関係

Aクラス		
時期	子どもの姿	保育者の考察
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者がいろいろなことを投げかけることに戸惑う子どもがいる。 ・人見知りをする子どもや、家族から離れることに不安を感じる子どもがいる。 ・「見て見て」と共感を求めたり、認めてもらえたことを喜んだりする姿が見られるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園とはどういうところなのか、保育者とはどのような存在なのか分からない子どもの気持ちに寄り添った関わりをし、理解していけるようにすることが大切である。 ・一緒に体を動かして遊んだり、共感したりしながら子どもが安心できるような関わりが大切である。
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びの中で「先生も一緒に」という言葉が聞かれるようになる。 ・乗り物ごっこでは、保育者が一緒に乗りながら危険がないように見守りつつ、子どもが進みたい方向に進んでいけるようにして一緒に楽しむ。 ・できたことを日々認めながら過ごしていくうちに、それを励みに頑張ろうとする様子も見られるようになる。 ・山登りでは、保育者が上手いかないところを助けたりしながら一緒に遊ぶことで、子どもが自分で登れた達成感を味わい何度も繰り返し楽しむようになる。 ・初め、なかなか心が開けずにいた子どもも、根気強く関わりを持つようにしていくうちに、保育者に対して関わりを求めるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者が子どもにとって一緒に遊んでくれる人であり、自分を待ってくれる人、助けてくれる人であるという安心感が子どもに伝わり、つながりができていく。 ・それぞれの子どもの心情を受け止め、距離感も考えながら関わっていくことで少しずつ心を開いていく。
6・7月	<ul style="list-style-type: none"> ・「おばけのお面を作りたい」「おばけやしきで絵本を読もう」「ピアノ弾いて」などと自分がしたいことやしてほしいことを保育者に話してくるようになる。 ・少しずつ自己表現が強くなり、ふざけたり、反抗的になったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもは保育者の手や知恵を借りながら遊びを実現し、膨らませていく。 ・保育者を含めてみんなで過ごすことで安心感のある雰囲気の中で友だちとのつながりもできていく。
Bクラス		
時期	子どもの姿	保育者の考察
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・家族から離れての幼稚園という場所や慣れない保育者に不安な気持ちをもつ子どもたちがいる。 ・人見知りをしたり、クラスにもなかなか入れない子どももいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不安な気持ちをもつ子どもや人見知りをする子どもたちにも幼稚園では「こんな楽しいことがある」と思えるように遊びや環境を整えていくことが大切である。
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・連休明けでまた不安な気持ちになる子どもたちがいる。 ・少しずつ保育者にも心を開き、子どもたちの方から「先生～」と話すようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの思いに目を向け、「認めてもらえた」と思えるよう寄り添って関わるのが大切である。 ・子どもたちに心を開いてもらえるように、急がずにゆっくりと関係を築いていくことが大切である。 ・子どもたちと一緒に遊ぶことで、楽しさやおもしろさを共有できる。
6・7月	<ul style="list-style-type: none"> ・「先生一緒に遊ぼう」などと保育者と関わろうとする子どもたちの姿が見られる。 ・「先生〇〇したい」など自分の思いを保育者に伝えるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが自分の思いを伝えられるように日々子どもたちの思いを受け止めることが大切である。 ・「〇〇したい～」という気持ちが出たり、伝えようとする気持ちになれたりするように肯定的に関わるのが大切である。

表4 友だちとの関係

Aクラス		
時期	子どもの姿	保育者の考察
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者と一緒に遊ぶ中で少しずつ子ども同士の関わりが見られるようになる。 ・不安に思っで登園してくる友だちに対して、心配して声をかけたり、頭をなでたりする。 ・電車ごっこで友だちや保育者を乗せて、一緒に楽しみ、つながりが生まれる。 ・ダンゴムシを見て、驚いたり、つついたりして興味を共有することで、つながりが深まっていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園での生活が安定すると、保育者との関わりをベースにして友だちとも関わるようになる。 ・友だちを励ましたり、慰めたりすることによりつながりが深まっていく。
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・山登りをしながら、応援したり、助けたり、参加していない友だちを誘ったりと、山登りを通して友だちとのつながりが深まっていく。 ・電車を大勢で共有することで、言葉のやりとりが増えていく。 ・未就園児も一緒にバスに乗り（ごっこ遊び）、異年齢の子どもと関わりをもつ。 ・お化け屋敷の中で、歌や絵本を一緒に楽しみ雰囲気共有を楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・山の上から友だちを大きな声で呼んだり、のびのび体を動かして一緒に遊ぶことで解放感を味わい、笑ったり、話したりしながら遊びの時間を楽しむことができる。 ・歌や絵本などの共有を通して、楽しい雰囲気を共に味わいつながりが深まっていく。
6・7月	<ul style="list-style-type: none"> ・登園時に、友だちを待ったり、欠席していることに気づいたりするようになる。 ・子ども同士で遊びを考えて作ろうとする。 ・友だちを応援したり、できるようになったことを認めたりする。 ・友だちとのやりとりの中で思いがぶつかり、相手の気持ちを受けて戸惑う子どもがいる。 ・満3歳児の友だちに、園での過ごし方を教えたり、助けたりする姿が見られるようになる。 ・好きな楽器を持ち、互いに貸し借りしたり、楽器を鳴らす場所を決めたりしながら一緒に音楽を楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園生活に気持ちのゆとりが生まれると、自分より小さい友だちを気にかけてたり、世話をしようとしたりするようになっていく。 ・自分なりのイメージや思いを持って遊びを進めるようになるため、友だちに言葉の表現が強くなったり、仲違いが起きたりするようになっていく。
Bクラス		
時期	子どもの姿	保育者の考察
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・お絵かきなど、自分の遊びを楽しむ。 ・バスに見立てた段ボールに友だちと一緒に入るなど、少しずつ友だちの存在にも気づいていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人での遊びが充実してから友だちと遊ぶことに広がるため、一人で十分遊べるように見守ることが大切である。
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・イスを一列に並べて友だちと座り、バスごっこを楽しむ。 ・絵本で興味をもった子どもたちが、線路づくりを始める。 ・おばけごっこなどで一緒に逃げたり、追いかけたりすることで、友だちと一緒に遊べる楽しさに少しずつ気づくようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの存在に気づくことで、少しずつ一緒に遊ぶようになっていく。 ・絵本などからも遊びが広がっていたため、子どもたちの興味や関心などに合わせて絵本を選ぶことが大切である。
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒーローごっこやプリンセスごっこで男の子同士や女の子同士のつながりも出てくる。 ・少しずつ友だちとのぶつかり合いも出てきて、「～された」と保育者に伝えにきたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ぶつかり合いの中でお互いの気持ちを受け止めたり、「○○ちゃんはこう思ってたんだね」などと言葉にして相手の気持ちにも気づけるようにすることが大切である。 ・嫌なことをした、されたという経験を通して相手の気持ちにも気づいていく。
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・「○○ちゃん一緒に遊ぼう」「○○ちゃんの隣がいい」など友だちを求めるようになる。 ・「こうじゃないと嫌だ」など自分の思いも出すようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちと遊ぶ約束をしたり、友だちを求めたりすることで、子どもたち同士のつながりが出てきた。しかし、気分によって「今日は○○ちゃんとは遊べない」などと仲間外れにすることもあったため、気持ちを受け止めながらも、言われたら嫌な気持ちになることにも気づけるようにしていくことが大切である。

〈 考 察 〉

1つ目に、園での生活の仕方や園生活の流れを理解し、主体的に行動できるようになる過程を支える保育について考察する。入園当初の子どもたちは、園での生活の仕方や流れがわからないだけでなく、基本的な生活習慣の自立の課題もある。こうした子どもたちが1学期の終わりには、主体的に生活を送るようになるばかりでなく、より年少の子どもに生活の仕方を教えようとするまでになる。その過程で保育者は、子どもが自分でしようと取り組み、できたことが自信につながるよう、必要な援助をしながらも時間をかけて見守ることが大切であると考えられる。また、片付ける場所をわかりやすくする、楽しく取り組めるような意味づけをするなど、子どもが自分でできること、自分からしようとすることを支える環境構成が重要になる。友だちの姿を見ることや友だちとの関わりが意欲につながる姿もあることから、友だちと一緒に行動することを嬉しく思えるような関係を築いていくことも生活の自立につながると考えられる。

2つ目に、自分の好きな遊びを見つけ、積極的に遊びを楽しめるようになる過程を支える保育について考える。AクラスとBクラスの結果を総合すると、保育者と一緒に遊びを楽しむ時期に続いて、友だちと遊びを楽しむ時期や自分の好きな遊びを楽しむ時期が来ている。遊びを通して保育者と安心できる関係を築くことが、友だちと遊びを楽しむことにも自分の好きな遊びを楽しむことにもつながると考えられる。両クラスとも主な遊びは、ごっこ遊びと山登り、虫との触れ合いである。ごっこ遊びのおもしろさは、見立てられた空間の共有から生まれる友だちとの共感や自分がイメージした何かになりきることにあると推察される。保育においては、それを可能にする空間の構成や物の準備が重要になる。子どもたちの姿を見ながら、子どもたちと共に環境を作っていくことが繰り返し遊びを楽しむことにつながると考えられる。戸外遊びでは、体を動かすことが好きな子どもも、静かに虫を観察することが好きな子どもも、それぞれに安心して遊んでいる様子が窺われる。自然との多様な関わりを認め励ますことが、夢中になって遊ぶ姿につながると考えられる。

3つ目に、保育者との信頼関係が築かれる過程を支える保育について考える。子どもたちは、1学期を通して、入園当初は未知の存在であった保育者に安心して自分の思いを表現するまでに変化する。結果から見えてくることは、子どもと一緒に遊ぶことの大切さである。遊びの楽しさやおもしろさを共有するとともに、遊びの過程で生じる子どもたちの様々な思いを受け止めていくことが安心感をもたらし、信頼へとつながると考えられる。さらに、子どもが気持ちを出すようになる上で、肯定的な関わりが大切なことが指摘されていることに注目したい。園生活のどの場面においても、保育者の言葉かけや応答が肯定的であることが、安心と信頼につながると考えられる。

4つ目に、一緒にいることや遊ぶことが安心で楽しい友だち関係が築かれていく過程を支える保育について考察する。1学期の友だち関係の変化を見ると、遊びの場の共有から一緒に遊びを楽しむ関係になり、次には思いのぶつかり合いも生じるようになる。結果では、保育者との関係が土台になるという見解と、一人遊びの充実から友だち関係へと広がるという見解が見られるが、これらは相反するものではない。歌や絵本などの共有を通して楽しい雰囲気と共に味わうことがつながりを深めるとする見解も示されている。保育者は一人ひとりの子どもと関係を築きながら、一人ひとりが遊びを十分に楽しめるよう支援するとともに、歌や絵本の読み

聞かせなども含め、友だちと一緒に楽しさを共有できる場を構成しながら保育を展開することが大切であると考えられる。また、子ども同士の思いのぶつかり合いの背景にそれぞれの子どものイメージや意図の発達があることを踏まえ、それを受け止めつつ、相手に伝えていけるよう支えることが重要になると考えられる。

以上、4つの柱に沿って、入園期の子どもの変化をとらえ、保育のあり方を考察してきた。子どもたちは1学期の間に幼稚園生活の主体として大きく成長する。その育ちを支える土台は保育者との信頼関係である。保育者との信頼関係は、保育者が子どもと一緒に遊び、楽しさの共感や思いを受け止めた肯定的な関わりを積み重ねることで築かれていく。また、保育者との遊びは友だちとの遊びの場の共有や楽しさの共有につながり、それによって友だちとの関わりを楽しいと感じる関係が築かれていくと考えられる。本研究では、幼稚園入園期の3歳児保育のポイントとして、保育者が子どもと一緒に遊びながら思いを受け止め、肯定的に関わることの重要性が明らかになったと言える。

〈 文 献 〉

- 相川徳孝（2000a）3歳児が幼稚園生活に適應するプロセス I－就学前の子どもの養育環境と幼稚園生活への適應に関する調査研究－. 聖学院大学論叢. 12（2）. 1－23
- 相川徳孝（2000b）3歳児が幼稚園生活に適應するプロセス II－事例を通して見る適應の姿－. 聖学院大学論叢. 13（1）. 1－19
- 井田聡美・菅眞佐子（2015）入園当初の幼児の他者との関わりにおける育ち－3歳児、4歳児の観察記録から－. 滋賀大学教育学部紀要. 65. 71－85
- 永瀬祐美子・倉持清美（2011）集団保育における遊びと生活習慣行動との関連－3歳児クラスの片付けの場面から－. 保育学研究. 49（2）. 73－83
- 坂上裕子・金丸智美（2017）子どもの幼稚園入園という移行体験を母親はどう支えているのか. 保育学研究. 55（3）. 21－32
- 高月教恵・松岡知子（2006）子どもの人間関係の育ちと教師の関わり方についての一考察－入園当初の3歳児を中心に－. 新見公立短期大学紀要. 27. 127－135